

令和元年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立加茂農林高等学校

学校番号 37

I 自己評価

1 学校教育目標	①人や自然を愛する豊かな情操、次代を生き抜く健やかな心身を形成する。 ②確かな学力とコミュニケーション能力を身に付け、自他の課題に主体的に挑戦する。 ③産業人として必要な素養を身に付け、地域社会や産業界に貢献できる。
----------	--

・学校運営

2 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	①「入学できてよかったと考えている」「職員に対して」「学習指導に対して」の項目の回答が低下している事から、授業に関する改善が必要である。 ②第3次教育ビジョンの重点項目「ふるさと教育」と「ICT環境の活用」への5カ年計画の1年目の実践。 ③「教職員の働き方改革プラン2019」の策定により「時間外勤務時間80時間」の策定	
3 今年度の具体的かつ明確な重点目標	①「加茂農林で学べてよかった」と思わせる教科指導 ②時間外勤務時間の短縮の啓発を推進し「勤めたい学校は加茂農林」を目指す。	
4 重点目標を達成するための校内における組織体制	①教務部、農場部、各学科をはじめ、校内の各分掌等において具現化し実施する。	
5 目標の達成に必要な具体的な取組	6 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
①学びの3要素を明確に示した授業改善を通し、確かな学力を身につけさせる。 ②ICTを活用した研究授業の実施による活用方法の模索を行う。 ③時間外勤務の軽減。	①科目「課題研究」成果・評価 ②学校評価アンケート「教員、学習指導」における評価の上昇 ④時間外勤務時間とストレスチェックの結果	
7 取組状況・実践内容等	8 評価視点	9 評価
①学びの3要素を明確に示した授業改善を通し、確かな学力を身につけさせる授業改善 ②ICT等を活用した研修への参加（研究授業の実施による活用方法の模索） ③勤務の割振、8の日、早帰りの日を意識した時間外勤務の軽減と正確・正直な勤次郎の打刻	①学校評価アンケートの教職員、学習指導に関する項目の評価 ②センター研修、研究授業への参加 ③割振の実施状況と勤次郎による勤務状況の把握	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
10 成果課題	・本校に入学できて良かったと思っている生徒の割合は多いが(97%)、「一人ひとりの良さや可能性を伸ばすことに努めている」は、生徒、保護者ともに下降している。 ・ICT環境の整備は整ったが、有効的な活用を検証するための研究授業に至らなかった。 ・業務アシスタント、農場支援員の導入により確実に業務軽減が出来ているが、解決できない部分がある。(意識と業務分担)	
11 来年度に向けての改善方策案	・特に教務との連携により、ICT等を活用した授業など「授業改善」の実践 ・教職員の健康管理と働き方改革に向けた取り組み	
総合評価		
A <input checked="" type="checkbox"/> B C D		

・教育課程・学習指導

2 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	平成30年度学校アンケートより ・教え方や説明がわかりやすいなど、学習指導に関すること全般・・・下降気味である。→授業改善が必要である。
--------------------------------	---

	平成30年度めいわく調査より ・授業中の迷惑行為のために嫌な思いをしている。→授業規律を守る指導が必要である。	
3 今年度の具体的かつ明確な重点目標	1. ICT環境の活用と「わかる授業」の実施。 (1) 公開・研究授業の実施と職員研修による授業の改善活動。 (2) チームで取り組み、授業規律の確立を目指す。 2. 魅力ある学校の情報発信。	
4 重点目標を達成するための校内における組織体制	授業を軸に、各部との連携を図り、チームで規律を確立する。 外部組織への積極的な研修活動(総合教育センター、企業)	
5 目標の達成に必要な具体的な取組	6 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 職員研修や研究・公開授業の実施 (2) 授業規律のルール提示と定着を図る (3) ICT機器の活用から授業改善を図る (4) HP、学校案内、各種学校説明会、すぐメールなど、外部・保護者・生徒への情報発信を行う	(1) 職員の意識(参観率)と生徒の評価(授業アンケート)は向上したか。 (2) 各分掌・担任と連携し、授業規律の定着を図る指導を行うことができているか。めいわく調査の結果は改善されたか。 (3) ICT機器を活用した授業が行われたか。 (4-1) 中学生の反応、オープンキャンパス、一日入学、選抜出願者数に現れているか (4-2) HPやすぐメールを利用した情報発信が活発になされたか	
7 取組状況・実践内容等	8 評価視点	9 評価
(1) 職員研修の実施や公開授業の参観率 (2) 授業規律の提示とめいわく調査による評価 (3) ICT機器の授業への積極的な活用 (4) ホームページの充実、すぐメールの活用	(1) 研修の実施・参観の感想の収集 (2) 授業規律は保たれているか (3) ICT機器を利用した授業改善は行われているか。 (4) HPの更新やすぐメールでの情報発信が適宜行われたか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D A B <input checked="" type="checkbox"/> C D A <input checked="" type="checkbox"/> B C D <input checked="" type="checkbox"/> A B C D
10 成果 ・課題	○研修を積極的に広報し、ICT活用の研修を実施することができた。 ○ICT機器導入に向け、ソフトやコンテンツの充実を図ることができた。 ○授業内でプロジェクトを活用する先生が増え、授業内容が充実した。 ○すぐメールでの家庭への行事広報を始めた。また、HPでの情報発信を行い昨年度よりもオープンキャンパスの参加者が増加した。 ▲授業規律の提示を行いつつ、教員相互の共通理解を図っているが学校アンケートではその効果があまり見られない。	総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
11 来年度に向けての改善方策案	・来年度も「授業改善」に力を入れ、環境整備と研究授業を実施する。 ・ICT機器を授業に活用してもらうよう、研修や研究授業を行う。	

・生徒指導・教育相談

2 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	ハローモーニング等で保護者から「元氣よく挨拶できない」などの意見があり、社会人としての最低限のマナーを身に付けさせる必要がある。また、めいわく調査により、授業での迷惑行為を感じている生徒が増加している。
3 今年度の具体的かつ明確な重点目標	「豊かな人間関係を築き、地域社会人として考え行動し、自らの夢に挑戦できる姿」の具現に向け、継続的な生活指導を図る。 ①命を守り生活を守る ・交通安全の徹底(道路交通法を厳守する) ・生活安全の徹底(スマホ・ネットの使い方・情報モラル)

	②生徒の自立を促す生徒指導 ・社会的自立：元気な挨拶・時間を守る・身なりを整える ・精神的自立：物事の善悪を判断できる・思いやりの心・高い人権意識	
4 重点目標を達成するための校内における組織体制	学科・学年会との連携及び教育相談組織の活用	
5 目標の達成に必要な具体的な取組	6 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
① 挨拶と中心とした生徒の自主的な活動の中で、規範意識の向上と問題行動等の未然防止に取り組む。 ② 教育相談を機能させ、生徒個人および集団のよりよい学校生活を実現させる。(SCの活用) ③ 交通とネットワークについて、ルールとスキルを身に付けさせる。 ④ 時間・身だしなみ・問題行動等の未然防止と対応 ⑤ いじめ・人権に反する言動を見逃さない。 ⑥ 授業規律の確立と授業巡回を取り入れた組織的な対応	① 生徒会・MSリーダーズ等を中心とした活動と取り組み状況が活発になっているか。 ② 相談の存在が充分広報できたか。 ③ 自他の安全を意識した具体的な行動面の変容。(交通事故件数0を目指す、情報モラル違反事案0を目指す) ④ 欠席総計(1000回以下)遅刻総計(350回以下)身だしなみの変容、問題行動事案件数(20件以下) ⑤ 「いじめは、どの学校でも、どの子にも起こり得る」と認識し、危機感をもって未然防止・対応に組織的に取り組む。 ⑥ 調査による授業でのめいわく行為件数	
7 取組状況・実践内容等	8 評価視点	9 評価
① 生徒会・MSリーダーズの取り組み状況 ② アンケート等を活用して生徒状況の把握 ③ 各講話・講習の実施と街頭指導 ④ 全職員による下校指導と遅刻指導の実施 ⑤ 生徒理解に基づく生活指導の展開 ⑥ 授業巡回等組織的な取り組み	① 模範意識の向上と各数値の変容 ② 調査の実施と活用 ③ 交通事故・情報モラル違反件数 ④ 問題行動事案件数・遅刻者数 ⑤ 調査等の対応と未然防止早期発見 ⑥ 授業でのめいわく行為件数	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
10 成果課題	○MSリーダーズを中心に、校外での清掃・挨拶活動を積極的に実施することができた。 ○校則について保護者アンケートの実施やPTA・評議委員等の意見を聞く機会を設けることができた。来年度に向けて改定を行った。 ●教育相談と連携をより一層強化し、不登校生徒の組織的対応を行う。 ●いじめの未然防止・早期発見を全職員で実施する。	総合評価 A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/>
11 来年度に向けての改善方策案	・今年度は不登校・長欠傾向の生徒が多くなってしまった。来年度に向けて正副担任・学年会・学科・教育相談と連携を密にして組織的な対応する。 ・「あいさつファースト」のもと、社会性を身に付けさせる指導の徹底	

・進路指導

2 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	学科試験が行われない就職先を選択したり、AO入試等で早期に安易に進路先を決めてしまう生徒が少なからず存在している。キャリア教育のより一層の充実が求められている。
3 今年度の具体的かつ明確な重点目標	「社会的・職業的な自立に必要な能力や態度」を育てるために、キャリア教育を踏まえた進路指導の充実を図る。 ①あらゆる機会を通して、基礎学力を確実に身に付けさせる。 ②主体的で意欲ある進路活動に結びつかせるための「選抜ポイント」及び「アグリマイスター認証制度」を意識させ将来の自分の姿を具体的に思い描かせる機会を設ける。
4 重点目標を達成するための校内における組織体制	・学年会、学科、各分掌と協力・連携して実施する。
5 目標の達成に必要な具体的な取組	6 達成度の判断・判定基準あるいは指標
①あらゆる機会を通して、基礎学力を身に付けることの重要性を理解させる。(全学年)	①基礎力診断テストへの取り組みと振り返り、進学学習会等を成果に結びつけることができたか。

②個々に応じた具体的な進路目標を持たせるために、将来の自分の姿を具体的に思い描かせる機会を設定する。(1年生)	②到達目標を明確にし、進路に関する思考・表現活動に働きかけたか。	
③学年末には具体的な進路目標を持たせることができるようにする。(2年生)	③「選抜ポイント」を意識させながら、より具体的な進路目標を持たせることができたか。	
④個々に応じた進路指導を充実させ、安易な進路を選択することのないよう努める。(3年生)	④適性、学力、家庭環境など様々な観点から判断し最も望ましい進路選択をさせることができたか。	
⑤挨拶や言葉遣いの指導を通して、進路決定における「挨拶」の重要性を意識させる。	⑤昨年度よりも自然な挨拶ができる生徒が増加しているか。	
7 取組状況・実践内容等	8 評価視点	9 評価
①多様な外部模試・講習会を案内した。	公務員模試・講習会、看護模試	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
②情報をデータ化し、すべての職員がどこからでも利用できるようにした。	求人票、求人情報、指定校推薦	A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
③進学希望者に対する一斉面接指導を行った。	各クラスに応じた指導とした	<input checked="" type="checkbox"/> A B C D
10 成果・課題	昨年度に引き続き求人件数が増加したこともあり、就職や将来設計について安易に取り組む生徒がいる中で、公務員希望者は昨年度から地道に努力することができ、成果を上げることができた。(6人合格) 進学希望者は、概ね希望する学校に合格することができたが、もう少し高い希望や目標を持つことができるような働きかけが必要ではないかと思われた。	総合評価 A <input checked="" type="checkbox"/> B C D
11 来年度に向けての改善方策案 一人ひとりの生徒に対する指導はクラス担任であることを念頭に置き、クラス担任が指導しやすいよう進路情報の提供、データの取りまとめに努めたい。 基礎学力に自信が持てないため、安易な進路を選択してしまう生徒がいることは残念である。学校全体として、定期考査や毎週の小テストを重要視し、学校全体でしっかりと取り組めるような雰囲気を作りたい。		

II 学校関係者評価

実施年月日 令和2年1月21日(火)

○意見・要望・評価等

- ・「習熟度別、少人数の授業があり、理解につながっている」について「わからない」「当てはまらない」が増している。また、学習環境の改善をどこまで生徒が望んでいるか。それが時代の要請とマッチしているかどうか見てほしい。
- ・農業高校出身の生徒は良く挨拶をしてくれる。また、私の勤務している農業大学校にはドレスコードはないが、発表会などで自粛を促すと従ってくれる。常識のある生徒が多い。校則が問題視されているが、高校生の中から変えてほしいという声が必要ではないか。
- ・社会では来年から不景気になるといわれているので、今年就職を考えた生徒が多くなったのではないかと感じる。学習内容は会話のネタになることが多く、進路に関してもコミュニケーションがとりやすい。コミュニケーション力が育つ校風が表れているのではないかと感じる。
- ・ふるさと教育という言葉は聞くが、学校の取り組みでどのようなものか理解できた。